



令和7年度11月号 令和7年11月4日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校長 佐伯 孝司

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1310240>

「一直線に並べる」から「ぐるぐる回す」へ

校長 佐伯 孝司



たくさんの質問、
助言、励まし…
2回目の探検に
生かします。



手作りの紙製スリッパを履く体験をさせていただきました。学校のスリッパよりもクッションが効き、履いていて楽でした。周囲を見ると、不用になった紙パックや印刷用紙、段ボール等で作ら様々な避難所グッズが並んでいます。それを、保護者の皆様が使う体験をしてくださっています。その反応の様子やお話を受け、児童は避難所グッズを改善することができるでしょう。

他の学年も同様に、来校された皆様にご協力いただく場面がありました。ありがとうございます。

児童が、課題意識をもって調べ、解決策を検討し、自分の意見をまとめて発表する。これだけでも大事な学びになります。しかし、本校の児童は、できるだけそこにとどまることなく、発表したときに聞き手の反応をよく見たり、質問や意見をもらったりして、もう一度課題を認識したり、別の解決



避難所生活に新提案



6年生の教室に行って質問しよう



廊下で他学年
の人と交流
して情報収集



教室内外に学びのヒントと楽しさがいっぱい

策や意見をもつきっかけにしたりして、もっとよい発表をつくることをめざしています。その過程が、深い追究につながるとともに、その学び方を身に付けることも大切だからです。一般に、探究的な学びの過程は【①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現】とされています。本校の校舎内にもたくさんこの言葉があふれています。しかし、本校の児童は、この過程を「一直線に並べる」だけにとどまらず、「ぐるぐる回す」ことに挑戦しています。10月15日の学校公開での発表は、④まとめ・表現であるとともに①課題の設定、②情報の収集等でもあり、再び探究的な学びの過程の始まりになっているのです。探究的な学びの過程がぐるぐる…＝サイクル化されていくのです。その過程で、多様な立場から、多様な見方・考え方からの意見を尊重し、検討して生かすことを学んでいきます。主体的な態度が協働的な学びを促します。

本校教員は、児童がこのサイクルを自らの力で回していく力を身に付けてほしいと願っています。教科で学んだことがシブヤ未来科の探究活動に役立つように、また、シブヤ未来科の学習活動が教科の学びを深めるようにと考え、私たち教員チームも、ともに学び続けています。本校の教室内外の環境、タブレットでつくられるデータ共有の場も、児童の主体的な学習活動、楽しい学校生活につながるようにと考え、試行錯誤しています。

今後も、「ともに学ぶ」児童の学習活動にご協力をお願いいたします。